

第18回 熊本市市民公益活動支援基金運営委員会議事録（要旨）

1 開催日時：平成28年8月2日（火） 10時00分～

2 開催場所：熊本市役所 12階会議室

3 市民公益活動支援基金運営委員

- ・出席者： 古賀 倫嗣 委員長（熊本大学教育学部教授）
佐藤 和弘 副委員長（株式会社 地域総研 代表取締役）
越地 真一郎 委員（地域づくりアドバイザー）
中島 久美子 委員（特定非営利活動法人 熊本県子ども劇場
連絡会 理事長）
松枝 清美 委員（公募市民）
田上 聖子 委員（経済観光局文化・スポーツ交流部長）
井上 学 委員（市民局市民生活部長）

4 配布資料

- 資料1 冠基金の設定について
- 資料2 平成28年度助成事業について
- 資料3 平成29年度助成事業について
- 参考資料① 広告事業実施要綱及び掲載基準
- 参考資料② ホームページ等でのご紹介
- 当日配布① 委員名簿
- 当日配布② 平成27年度助成事業報告会 実施報告書

5 会議録（要旨）

【議事】

冠基金の設定について

（資料1及び参考資料①、②に基づき、事務局より説明）

（古賀委員長）

東京エレクトロン九州 株式会社は合志市にあり、そういった意味では、熊本市内に本社があるこれまでの寄附事業者とは異なるわけだが、本社が熊本市外であってもなんら差支えないということを確認させていただきたい。

まず、この冠寄附の申出を受け入れていいかどうか、次に「東京エレクトロン九州・マッチングギフト」という名称でよろしいかどうかの2点についてご意見を伺いたい。なお、事務局による事前の審査では、この名称で問題はないという判断がなされている。

(委員、全員了承)

(古賀委員長)

これについては、原案どおり承認とさせていただきます。

当基金の財源は皆様からの寄附金だが、これをいただくことはなかなか難しい。そのような中、これだけ大口の寄附をいただくと大変ありがたいだけでなく、こういったかたちで企業のミッションとして当基金への寄附を選んでいただくことで、当基金が波及していくための大きな弾みになるのではないかという期待を込めている。

(越地委員)

冠寄附は今回の寄附であわせて3件になるが、この件数の目標値はあるのか。またPR活動などをどのように行っているのか。

(事務局)

昨年から「くまもと経済」という企業向けの雑誌に広告を出している。これまでは、市民活動を広く市民の方に知っていただくという目的もあり、リビング新聞やすばいすなどの生活情報誌に広告掲載をしていたが、それとはまた別の切り口で、冠基金などの企業向けのPRにも力を入れていきたいと考えている。

また、目標値としては、毎年総額 200 万円の助成を目標としているため、これをキープしつつ、昨年度委員会でご意見のあったように、ゆくゆくは助成件数を増やしていきたいという思いがある。そのため、具体的ではないにしても、寄附件数についても伸ばしていきたい。

(佐藤副委員長)

これまで、寄附をいただいたところに助成事業の活動内容を紹介していた記憶があるが、それは今回も継続してやっていくのか。

(事務局)

助成決定後の事業紹介ということであれば、冠寄附に限らず、全て寄附者の方にお知らせしている。寄附者には、市民活動のPRとその助成事業の報告を兼ねて、情報誌を送付している。

(佐藤副委員長)

こういった機会を利用して、「こんな寄附をいただいて、こういった活動をしている」という広報をすると、寄附された側の立場からしても会社のPRになる。そういった意味でも広報活動に力を入れて欲しいと思う。

(古賀委員長)

当基金の制度設計時にも、策定委員であった企業代表の方から「企業にとって何かメリットがなければ、なかなか寄附には至らないだろう」という意見があり、ある程度寄附者にも還元できるような仕組みをとることが議論になった。今回の寄附に関しては、感謝状の贈呈というかたちでまずは対応させていただく。

【報告事項】

(1) 平成 27 年度助成事業報告会について

(当日配布②に基づき、事務局より説明)

(中島委員)

この報告会について新聞等にも載っていなかったようだが、マスコミへの周知や取材、市民に対してのアピールはどのように行うのか。

(事務局)

今回の開催については、報道機関への情報提供は行ったが、市民には周知しなかった。本来この事業報告会は、当基金制度や市民公益活動などのPRの場として、例年市民と活動団体との交流会とあわせて開催していたが、熊本地震による開催会場の被災に伴い、不特定多数の方をお呼びしての開催ができなくなった。

そのため、今年度は、対象者を平成 27 年度助成団体と平成 28 年度助成団体に限定して、助成活動を通して得た反省点や良かった点などを持ち帰っていただく場として開催した。

(佐藤委員)

報告書の裏面に、いくつかの団体から行政との連携や広報についての意見、要望があったとあるが、具体的にどういった意見があったのか。

(事務局)

主に2団体がそういった話をされた。

1つは、ジェンヌKumamotoといって、保育園等の入所活動の支援イベントを行った団体からの意見で、保育園等の入所制度の理解を深めていただくためのセミナーや相談窓口を設けたイベントを開催したが、そこで受けた質問に民間の任意団体では答えられないものが多くあった。イベントの開催にあたって、当課も仲介役となって、事前に保育幼稚園課に協力を仰ぎ、市として相談ブースを持てないかという相談も行ったが、実現は困難だった。団体からの報告では、今後も相談業務を継続していきたいとしたうえで、やはり民間では解決できない部分に関しては行政と連携を取っていきたいと話していた。

もう1つは、子ども夢工房という学校の先生たちで組織されていらっしゃる団体で、五色百人一首や親子で上の句、下の句にわかれて詩をつくる親守詩に取り組まれているところが、なかなか参加される子どもたちへの呼びかけが難しいので、教育委員会と協力して一緒に広報をして欲しい、そうしたら子どももたくさん集まって、より広まっていくのだが、というご意見があった。

(古賀委員長)

なかなか難しい話。特に2番目に挙げられた教育委員会との連携についてだが、教育委員会というものは、子どもの安心、安全というのが第一にあって活動している。そういった意味では、一般論ではあるが、どちらかというとPTAなどの保護者団体の協力を得ながら活動していく方が良いのではないかな。

1つ目のケースもまた難しい問題。まずは第一ステップとして、「そこへ行くという相談ができますよ」といった行政窓口の案内を行っていくしかないだろう。やはり行政としては、中立の立場で公平に取り扱わなくてはならないため、ある団体にのみ協力すると、それを問題視される場合もある。そういった意味では、行政との市民協働の入り方を少し整理していく必要があるのかもしれない。そのあたりも課題として受け止めていきたい。

今回、熊本地震の影響を受けて、例年とは異なった規模を縮小しての開催であったが、報告書の最後にもあったように、震災によって協働のあり方や市民活動団体の方向性といったものについて、いろんな議論ができるきっかけになった。そういった成果が挙げられるという意味で、非常に重要な報告会が開催できたことにお礼申し上げたい。

(2) 平成 28 年度助成事業について

(資料 2 に基づき、事務局より説明)

(古賀委員長)

今回、ル・シエルくまもとについては、活動の見通しがつかないために辞退、くまもとオカリナの会については、会場として予定していた中央公民館の長期休館を理由に、会場を指定して募集する方法から訪問型ワークショップに変更するということがあった。これはさほど大きな変更ではないが、もう 1 つのテアトロ・リリカ熊本については、事業内容を大きく変更している。

ただ、この事業は、青少年ワークショップを中心として当基金による助成の成果を出したいというものであったため、趣旨そのものについてはまったく遺漏がない。しかし、本来であれば報告事項である案件ではあるが、こういった大きな変化を伴うので、ここで委員の皆様の承認をいただくというかたちを取らせていただきたいと思います。何か、このことについてご意見等はあるか。

(越地委員)

これらの辞退や変更は、団体から自発的に申出があったのか。それともアンケートなどによってわかったものなのか。

(事務局)

もともと 4 月 20 日に今年度助成団体への決定書交付式と説明会を行う予定だったが、震災によってこれが中止になってしまった。そのため、決定書の交付と助成事業に対する説明を個別に実施することになったのだが、そのときに各団体の状況を聞き取っていく中で向こうから申出があった。

(古賀委員長)

本来、事業の変更というものは事務的な手続きではあるが、今回はそれにとどまらない部分もあったため、この場でご説明をいただいた。それでは、これらの変更について承認してよろしいか。

(委員、全員了承)

(3) 平成 29 年度助成事業について

(資料 3 に基づき、事務局より説明)

(古賀委員長)

平成29年度助成事業の詳細な審査方法等については、次回委員会での審査事項となる。今日の説明は、昨年度改正されたものについての確認であったが、このことについてご質問やご意見はあるか。

これを見ると、これまでの限度額は100万円という大きな額だったが、これからは限度額25万円ということで、できるだけ適正な団体にこういった助成をするという方向での改正になる。今回、東京エレクトロン九州様から100万円という本当にありがたい寄附をいただいた。これを踏まえて、そういった寄附者の思いが生かせるような審査とさせていただくので、それにつきましては、どうぞよろしくお願いしたい。

【次回委員会の開催について】

(事務局より、次回委員会の日程について説明)

【閉会】

(古賀委員長)

これをもって、第18回市民公益活動支援基金運営委員会を閉会とする。

(終 了)